α-70

J 使用説明書

ご使用前によくお読みください。

目次

目次 (続き)

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくため、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

 警告 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 注意 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例 △記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。(左図の場合は発熱注意)

警告

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。

- **指定された電池以外は使わないでください。**
- **電池の極性(+/−)を逆に入れないでください。**
- **表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池は使用しないでください。**
- **電池の充電、ショート、分解、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。また金属類と一緒に保管しないでください。**
- **新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池を混ぜて使用しないでください。**
- **万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。**

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、ケガの原因となります。「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠警告

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光させると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

ファインダーを通して、特に取り外したレンズのみで太陽や強い光を見ないでください。
視力障害や失明の原因となります。

カメラを濡らしたり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分注意してください。
使用を続けると感電、火傷、ケガの原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠注意

直射日光の当たる場所に放置しないでください。
太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

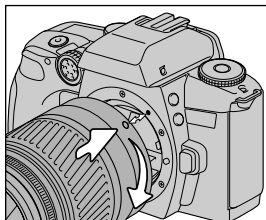
発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

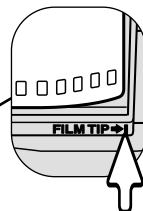
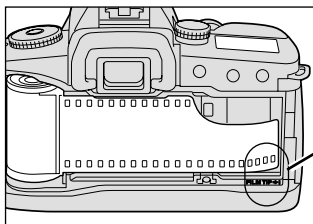
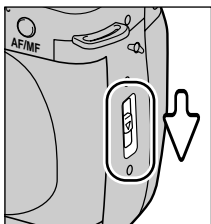
撮影早わかり(操作の流れ) 詳しくは本文をご覧ください

ご購入後、まず最初に、電池を入れ、日付・時刻を設定してください。**→P.15**

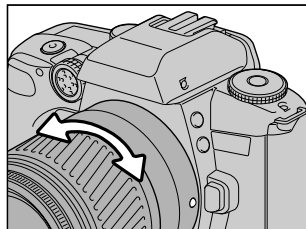
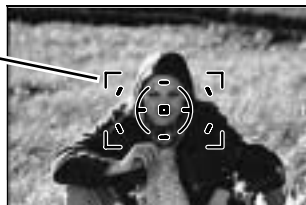
このカメラには、弊社のボディ特性に適合するように設計された弊社製のアクセサリーの使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能の保証や、それによって生じた事故や故障についての補償はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

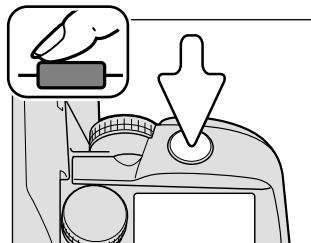
1.レンズを取り付けます。

レンズとボディの2つの赤い点を合わせてはめ込み、レンズを軽くボディに押し付けながら、カチッと音がするまで時計方向にゆっくり回します。
（P.22参照）

2.裏ぶたを開け、フィルムを入れます。

フィルムの先端を **FILM TIP** マークの右端に合わせ、裏ぶたを閉じます。
（P.25参照）

3.全自動にします。

メインスイッチ／モードダイヤルを回して、フルオートプログラム Ⓟ に合わせます。
（P.35参照）

4.カメラを構えて、撮影したいものが希望の大きさになるように、レンズのズームリングを回します(ズームレンズ使用の場合)。
（P.31参照）

5.被写体がワイドフォーカスフレームに入るように構えます。
（P.34参照）

6.シャッターボタンを半押しします。（P.32参照）

- 自動的にピントが合います。
- ピントが合うと、ピピッと電子音が鳴ります（電子音ON時）。同時に、ピントが合った部分のローカルフォーカスフレームが一瞬赤く点灯します。
- 必要な場合には、内蔵フラッシュが自動的に上がり、撮影時フラッシュが発光します。

7.シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

撮影が終了したら、メインスイッチをOFFにしてください。

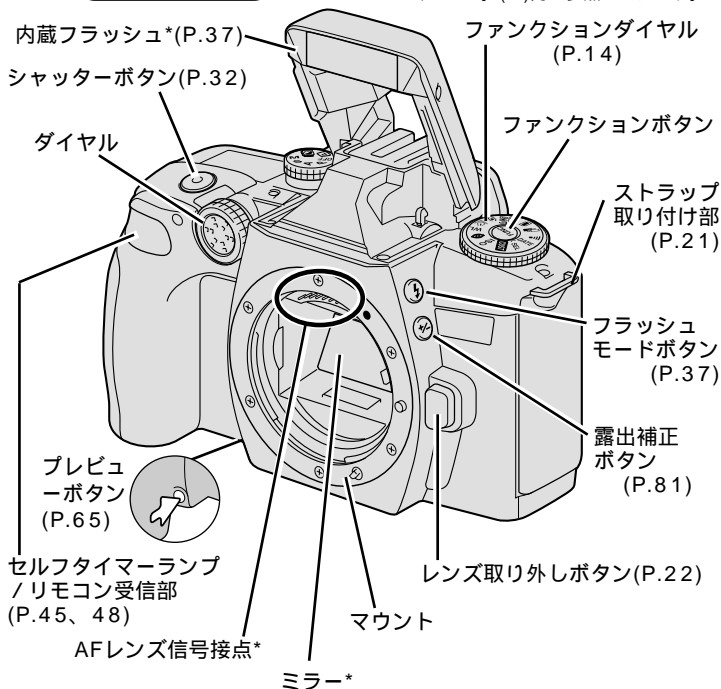
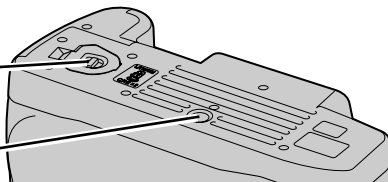
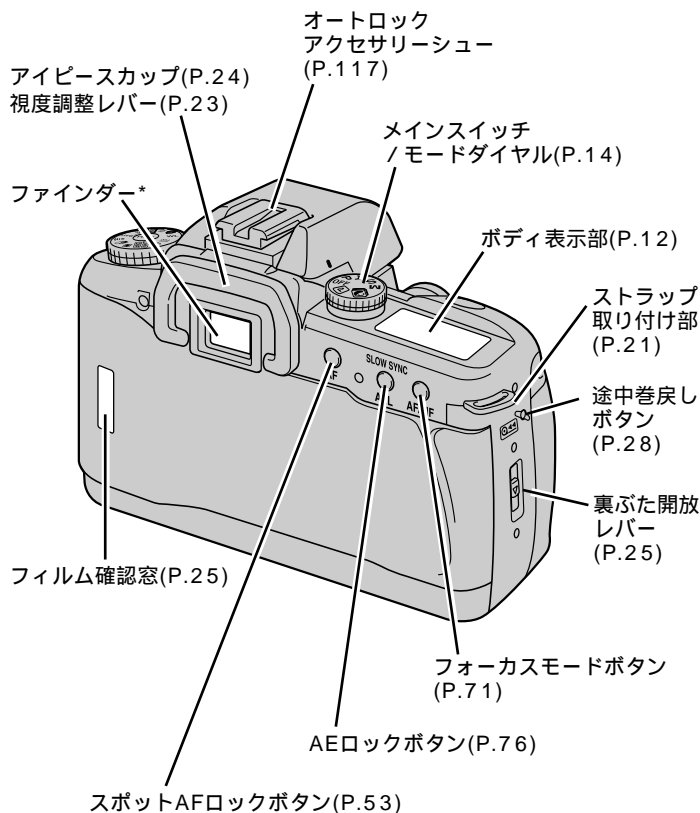
各部の名称

カメラボディ

ボディ前面

*印のついたところは、直接手で触れないでください。(　)内は参照ページです。

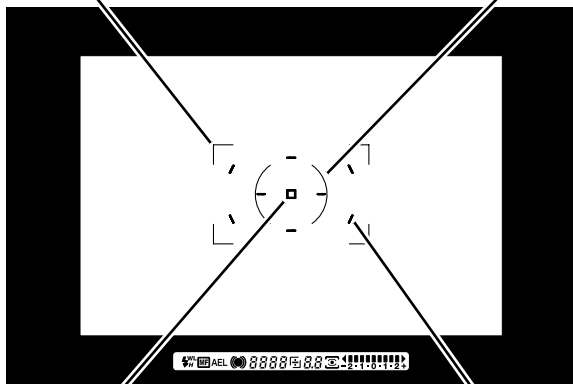
ボディ背面

オートロック
アクセサリーシュー
(P.117)
アイピースカップ(P.24)
視度調整レバー(P.23)
メインスイッチ
／モードダイヤル(P.14)
ファインダー*
ボディ表示部(P.12)
ストラップ
取り付け部
(P.21)
SLOW SYNC
途中巻戻し
ボタン
(P.28)
裏ぶた開放
レバー
(P.25)
フィルム確認窓(P.25)
フォーカスモードボタン
(P.71)
AEロックボタン(P.76)
スポットAFロックボタン(P.53)

ボディ表示部

説明のためすべての表示を点灯させています。

ファインダー表示部

ワイドフォーカスフレーム(P.34)

スポット測光サークル(P.77)

スポットフォーカスフレーム(P.53)

ローカルフォーカスフレーム(P.54)

メインスイッチ／モードダイヤル

OFF　メインスイッチOFF

カメラを使用しないときは、ダイヤルをこの位置に合わせ、電源を切ります。

フルオートプログラム(P.35)

撮影シーンセレクター(P.41)

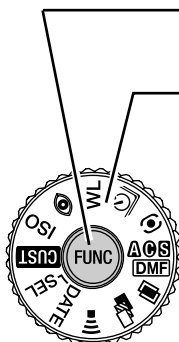
露出モード

P　P(プログラム)モード(P.62)
A　A(絞り優先)モード(P.63)
S　S(シャッター速度優先)モード(P.66)
M　M(マニュアル)モード(P.68)

ファンクションボタン／ファンクションダイヤル

ファンクションボタン

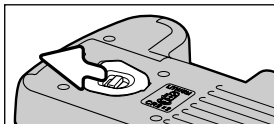
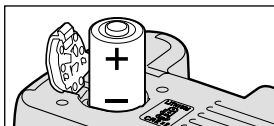
ファンクションダイヤルの機能を設定するときに使います。

ファンクションダイヤル

AFモード(P.57)
測光モード(P.73)
巻き上げモード(P.45)
WL　ワイヤレスフラッシュ設定(P.94)
赤目軽減フラッシュ発光設定(P.40)
ISO　フィルム感度設定(P.72)
CUST　カスタム設定(P.100)
DATE　日付・時刻写し込みモード設定(P.19)
SEL　日付・時刻設定(P.17)
電子音設定(P.29)
ブラケット(露出ずらし)設定(P.83)
多重露光設定(P.86)

ご購入後、最初に設定してください

電池を入れる

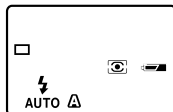
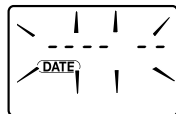
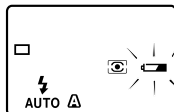
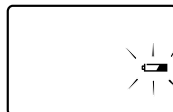
このカメラは3VリチウムCR2を2個使用します。電池はお買い上げのパッケージに梱包されています。

1.電池室ふたの溝を矢印の方向へ引き、ふたを開けます。

2.電池室ふた横の＋／－表示にしたがって電池を入れます。

3.ふたを閉めます。

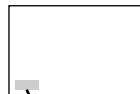
- 電池室ふたを開けたまま、ふたを下にしてカメラを置かないでください。破損の原因となります。
- 電池の取り扱いについては「取り扱い上の注意」(P.124)をご覧ください。
- 日付・時刻の写し込み撮影を行なっているときに電池交換される場合は、次ページの「日付・時刻の写し込み撮影中に電池交換するとき」をご参照ください。
- 海外旅行などにお出かけの際には、予備の電池をお持ちください。

電池容量表示について

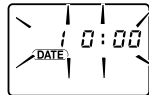
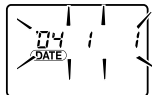
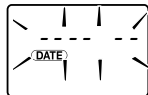
メインスイッチ／モードダイヤルをONにする(OFF以外の位置に合わせる)と、電池の容量がボディ表示部に常に表示されます。

- ご購入後、カメラに初めて電池を入れたときは、日付表示部が点滅して、日付・時刻が設定されていないことをお知らせします(右図)。シャッターボタン、ファンクションダイヤルのいずれかを操作すると、電池の容量が表示されます。(下図)
- メインスイッチをONにしても何も表示されないときは、電池の向きを確認してください。

点灯
電池容量は十分です。

点滅
電池を交換することをおすすめします(この状態でも撮影はできます)。

のみ点滅
(他の表示はすべて消灯)
新しい電池と交換してください(シャッターは切れません)。

日付・時刻の設定

撮影時の日付や時刻を写真の左下に写し込むことができます。

おおよその
写し込み位置

● 2039年までの日付・時刻に対応しています。
● 日付・時刻表示用の電源は、カメラ本体の電池を兼用しています。

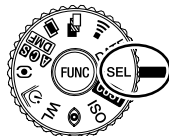
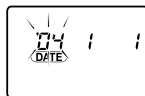
ご購入直後や、電池を交換したり*(下記参照)、入れ直した後は、メインスイッチをONにすると、ボディ表示部に以下のいずれかの表示が点滅します。このままでは日付・時刻は写し込まれません。日付・時刻写し込みをする場合は、日付・時刻の設定を行ってください。

*日付・時刻の写し込み撮影中に電池交換するとき

電池を交換する時、メインスイッチをON→OFF（またはOFF→ON）にしてください。メインスイッチを操作した日付・時刻がカメラに記憶されます。日付・時刻の設定時に記憶された日付・時刻が呼び出されて設定する部分が少なくて済みます。

日付・時刻を設定する

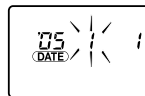
例として2005年3月24日15:45に設定する場合を説明します。

1.ファンクションダイヤルを回して、日付・時刻設定 SEL の位置に合わせます。

● 日付・時刻設定表示に変わり、「年」が点滅します。ご購入直後は初期設定値の「'04 1 1」(2004年1月1日)が表示され、「年」を表す「'04」が点滅します。

2.ファンクションボタンを押しながら、ダイヤルを回して、数値を修正します。

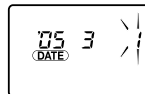
● ダイヤルを右に回すと数値が大きくなり、左に回すと小さくなります。
● ファンクションボタンを押しているあいだは、DATE 表示も点滅します。
● ここでは2005年を表す「'05」に変更します。
● 「年」の数字は'39まで進むと'03に戻ります。

3.ダイヤルを右に回して、「月」を点滅させます。

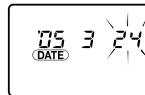
● この例では「1」(1月)が点滅しています。

4.ファンクションボタンを押しながら、ダイヤルを回して、数値を修正します。

● ここでは3月を表す「3」に変更します。

5.ダイヤルを右に回して、「日」を点滅させます。

● この例では「1」(1日)が点滅しています。

6.ファンクションボタンを押しながら、ダイヤルを回して、数値を修正します。

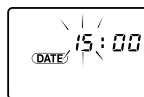
● ここでは24日を表す「24」に変更します。

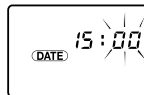
次ページに続く

日付・時刻を設定する(続き)

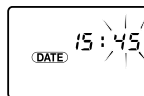
7.ダイヤルを右に回して、「時」を点滅させます。

- 表示が、日付から時刻に変わります。この例では「0」(0時)が点滅します。
- 時刻も合わせないと、日付がずれることがありますので、必ず設定してください。

8. ファンクションボタンを押しながら、ダイヤルを回して、数値を修正します。

- ここでは15時を表す「15」に変更します。

9.ダイヤルを右に回して、「分」を点滅させます。

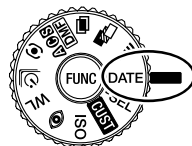
- この例では「00」(00分)が点滅しています。

10.ファンクションボタンを押しながら、ダイヤルを回して、数値を修正します。

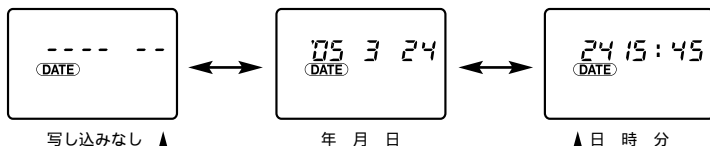
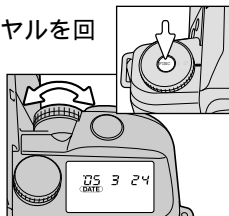
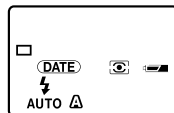
- ここでは45分を表す「45」に変更します。
- 秒を時報と合わせる場合は、合わせたい時刻の1分前を表示させ(ここでは12時44分)、時報に合わせてダイヤルを回し、「45」に変更します。

11.ファンクションダイヤルを日付・時刻設定以外の位置に合わせると、日付・時刻の設定が完了します。

- ご購入直後は、このあと続いて写し込み日付・時刻写し込みモードを設定しますので、ファンクションダイヤルを、写し込み日付・時刻写し込みモード設定の位置に合わせてください(次ページの「写し込みモードを選択する」参照)。

■ **ファンクションダイヤルが日付・時刻設定(SEL)の位置にあるときは、シャッターボタンを押し込んで撮影することは可能ですが、他の操作は出来ません。**

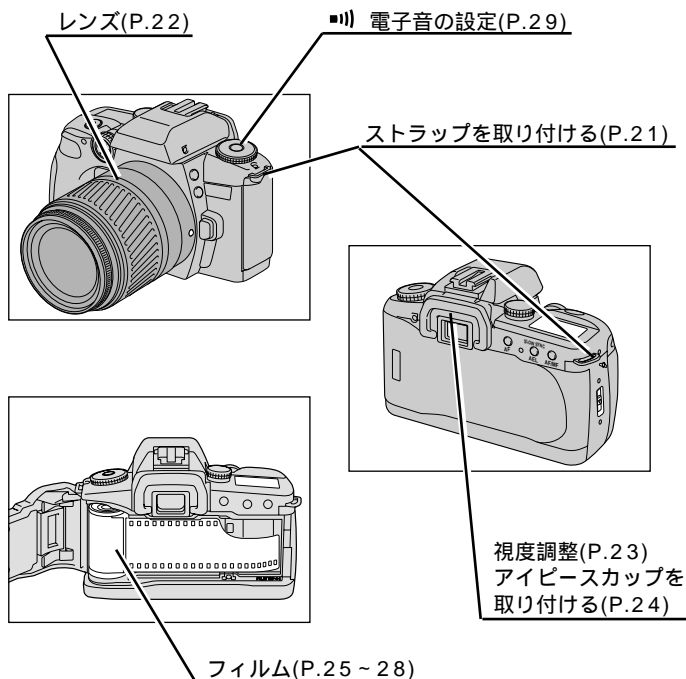
写し込みモードを選択する

1.ファンクションダイヤルを回して、日付・時刻写し込みモード設定の位置に合わせます。

2.ファンクションボタンを押しながら、ダイヤルを回して、写し込みたい表示を選びます。

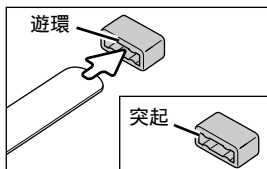
- ダイヤルを回すたびに表示が変わります。
- ファンクションボタンを押しているあいだは、(DATE) 表示も点滅します。

- 写し込みありに設定すると、通常表示中、(DATE) が表示されます。
- 年・月・日の並びは、カスタム設定１５で変更可能です。（P.１１３参照）

日付写し込み条件について

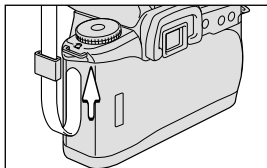
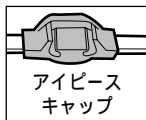
- ■ **フィルムの最後のコマでは正しく日付や時刻の写し込みがされない場合があります。**
- ■ **日付・写し込み機能は0～50℃の温度範囲でご使用ください。それ以外では正常に機能しないことがあります。**
- ■ **写し込み位置に明るい色(空や白い壁など)があると、写し込んだ文字が読みにくくなることがあります。**

準備編

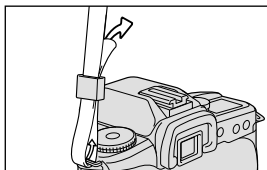
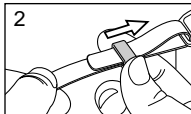
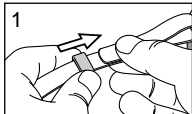
レンズの交換方法、フィルムの入れ方など、撮影の前に知っていただきたいことについてまとめています。ご使用の前に一通り目を通してください。

ストラップを取り付ける

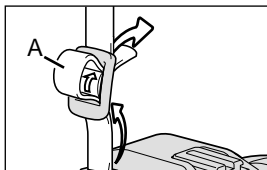
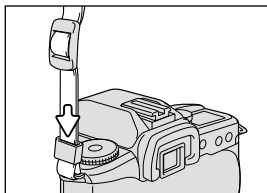
付属のストラップを取り付けると、持ち運びに便利です。また、カメラの落下などを防ぐことができます。

1.ストラップを遊環に通します。
図のように4ヶ所の突起のある側からストラップの先端を差し込みます。

2.ストラップの先端をストラップ取付部の下から通します。

アイピースキャップの付いている側を、ファンクションダイヤル側に取り付けてください。

3.ストラップの先端を遊環に通します。

遊環に通す際、硬くて通しにくい場合は以下の方法で通してください。

1 先端部分の近くを指で固定し、遊環を移動させて先端部を貫通するまで通します。
2 紐部分を持って、遊環を矢印方向に移動させます。

4.ストラップの止め具の内側を通して固定します。

- Aの部分を少し大きめに引き出した方が通しやすくなります。

5.遊環を下まで押し付けてストラップを固定(ズリ落ちないように)します。

※反対側も同様に取り付けてください。

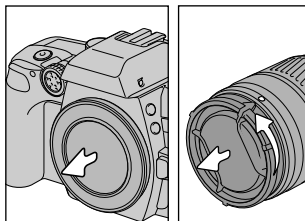
レンズ

このカメラは撮影シーンに応じてレンズが交換できます。すべてのαレンズが使用できます。Vレンズ、MDレンズ、MCレンズなどはご使用になれません。

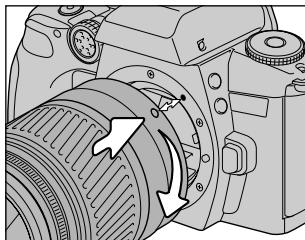
●日光の強い屋外では、画角外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。(P.116参照)

取り付ける

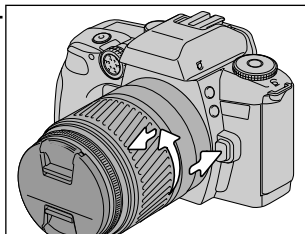
1.カメラのボディキャップ、レンズの後キャップを外します。

● カメラの内部、特にレンズ信号接点やミラーに触れたり傷つけたりしないように、また内部に水滴・砂・ホコリが入らないように気をつけてください。

2.レンズとボディの2つの赤い点を合わせてはめ込み、レンズを軽くボディに押し付けながら、カチッと音がするまで時計方向にゆっくり回します。

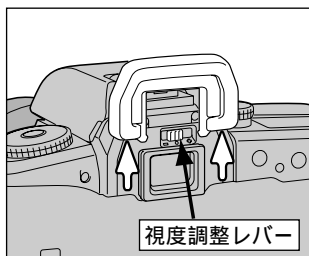
● レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。

● レンズを斜めに差し込まないようにしてください。

取り外す

レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取り外します。

●取り外した後カメラとレンズはキャップを付けて保管してください。

視度調整

目の調子によりファインダー内の像がはっきり見えないときは、ファインダーの視度を調整して見やすくすることができます。

準
備
編

1.アイピースカップが取り付けられている場合は外します。

● アイピースカップは両側を上に押し上げると外れます。

2.ファインダーをのぞいて、フォーカスフレームがはっきり見えるように視度調整レバーを動かします。

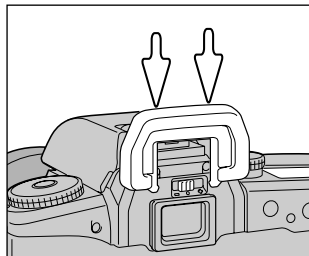
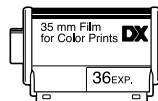
● 遠視の場合は＋方向へ、近視の場合は－方向へ動かしてください。

■ **レンズを外した状態で、カメラをできるだけ明るいところに向けると、視度があわせやすくなります。**

■ **別売りの視度調整アタッチメント１０００を併用することもできます。カメラ本体の視度調整機能を用いてもはっきりと見えない場合にお使いください。近視用4種類、遠視用5種類があります。**

アイピースカップを取り付ける

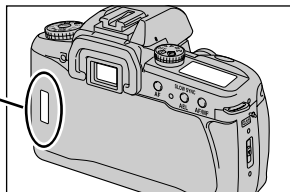
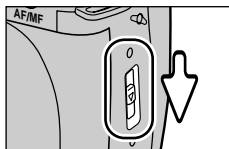
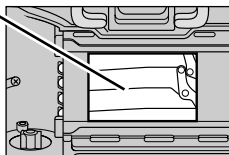
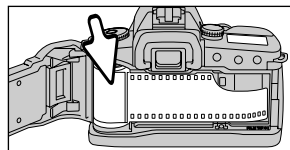
付属のアイピースカップを、カメラのファインダー上部に取付けます。

図のように、アイピースカップをファインダーの上からスライドさせて取り付けます。

フィルム

DXコード付きフィルム

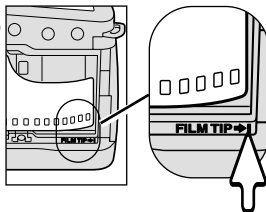
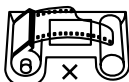
フィルムを入れる

撮影の前にフィルムを入れます。

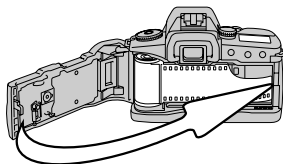
● フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ってください。
● DXコード付きフィルムの場合、フィルム感度が自動的に設定されます。DXコードが付いていないフィルムの場合、フィルム感度は直前に使用されていたフィルムの感度になります。
● このカメラで撮影できる枚数は40コマまでです。72枚撮りや手巻きフィルム等を使用された場合でも、40コマ目を撮影すると自動的に巻き戻しが始まります。
● ポラロイドインスタントリバーサルフィルムや赤外線フィルムは使用できません。

1.フィルム確認窓で、フィルムが入っていないことを確認します。

2.裏ぶた開放レバーを押し下げて、裏ぶたを開けます。

シャッター幕は非常に薄く精巧に作られていますので、絶対に手などを触れないでください。故障の原因となります。お手入れの際に、シャッター幕へブロアーなどでエアーを直接吹きかけないでください。また、フィルムを装填、交換する際、シャッター幕に指やフィルム先端などで触れないでください。シャッター幕の破損・変形の恐れがあります。

3.図のようにフィルムを入れます。

次ページに続く

4.フィルムの先端を FILM TIP マークの右端に合わせます。

- フィルムが浮き上がらないようにパトローネ(フィルム容器)を押さえてください。

- フィルムの先端をカメラに入れ過ぎないようにしてください。先端が出過ぎた時は、パトローネの中に押し戻してください。
- 先端を入れ過ぎると、撮影途中のフィルムの巻き上げ時にトラブルが発生する場合があります。また、規定枚数内の撮影であっても日付・時刻が正しく写し込まれない場合があります。

5.裏ぶたを閉じます。

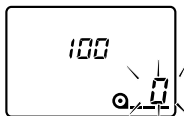
- フィルムが自動的に巻き上げられ、セーフティロックがかかります。（P.27参照）
- 裏ぶたを閉じる時に、ストラップをはさまないように気をつけてください。

フィルムを入れた時のボディ表示部

正しく巻き上げられた時

メインスイッチON

- ◎__1 が表示されます。
- フィルム感度が5秒間表示されます。

メインスイッチOFF

- ◎__1 とフィルム感度が5秒間表示された後、消灯します。

正しく巻き上げられなかった時

- __0 が点滅します。フィルムをもう一度入れ直してください。

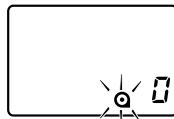
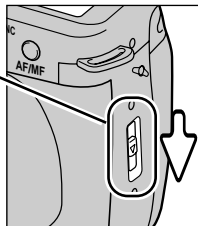
セーフティロック

このカメラにフィルムを入れると、裏ぶたがロックされ開きません。不用意に裏ぶたを開けてフィルムを感光させ、撮影済みの写真が台無しになるなどの失敗を防ぐためです。

巻き戻し中はセーフティロックが解除されますので、完全に巻き戻しが終了したことを確認してから、裏ぶたを開けてください(下記参照)。

フィルムを取り出す

1.最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

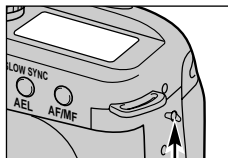
● フィルムの巻き戻しが完了すると、フィルムカウンターが 0 になり、 が点滅します。

2.裏ぶた開放レバーを押し下げて、裏ぶたを開けます。

3.フィルムを取り出します。

- ■ **規定枚数以上撮影した場合、最後のコマは現像処理でカットされてしまうことがあります。**
- ■ **フィルムの最後のコマでは正しく日付や時刻の写し込みがされない場合があります。**
- ■ **巻き戻し中にレンズのフォーカスリングを回さないでください。回してしまった場合は、巻き戻し終了後、メインスイッチを操作(ON→OFFまたはOFF→ON)してください。**
- ■ **カスタム設定2で自動巻き戻しのあり／なしを設定変更できます。(P.104参照)**
- ■ **カスタム設定3で巻き戻したフィルムの先端を残さない／残すを設定変更できます。(P.105参照)**

最後のコマまで撮影せずにフィルムを途中で取り出したいときは

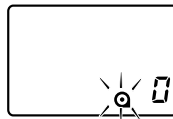
1.途中巻き戻しボタンを軽く押します。

途中巻き戻し
ボタン

- 途中巻き戻しボタンを押すと巻き戻しが始まります。
- これらのボタンを押すときは、ボールペンなど先の丸いもので軽く押してください。
- つまようじのような先のとがったもので押すと、故障の原因になります。
- 鉛筆やシャープペンシルは、スイッチがショートする原因になりますので、使用しないでください。

2.巻き戻しが終わったらフィルムを取り出します。

- カウンターが 0 になり、 が点滅するまで、裏ぶたは開けないでください。

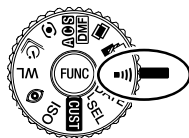
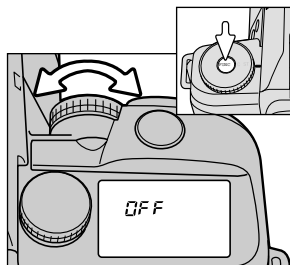
電子音の設定 ■)))

準備編

ピントが合ったときやセルフタイマー作動時、またはリモコン使用時に電子音を発し、表示に加えて音でも作動確認できます。電子音を設定すると以下のような音が鳴ります。ご購入時はONに設定されています。

作動	電子音
オートフォーカスでピントが合い固定された時	(ピピッ)
セルフタイマー作動中	(ピーピーピー・・ピピピピー)
IRリモコンRC-3(2S)使用時	(ピピピピー)
IRリモコンRC-3(●)使用時	(ピッ)

● IRリモコンRC-3は別売です。

電子音の設定をOFFにする

1. ファンクションダイヤルを ■))) の位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に OFF を表示させます。

電子音の設定をONにする

OFF にする場合と同じ要領で On を選びます。

基本撮影編

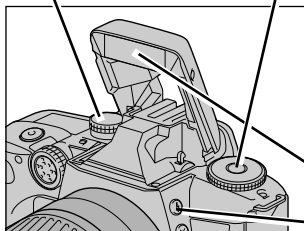
ピントの合わせ方や、きれいな写真が簡単に撮れる全自動での撮影方法を説明しています。
また、内蔵フラッシュの使い方や、ポートレート、夜景など、シーンに合わせた撮影方法についても説明しております。

ピントの合わせ方
(P.32〜34)

P フルオートプログラム(P.35〜36)

撮影シーンセレクター(P.41〜44)

赤目軽減フラッシュ発光(P.40)

巻き上げモード
- セルフタイマー撮影(P.45〜46)
- 連続撮影(P.47)
- リモコン撮影(P.48〜50)

内蔵フラッシュ撮影
(P.37〜39)

カメラの構え方／ズームレンズの使い方

カメラの構え方

カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

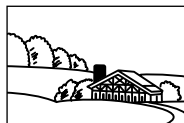
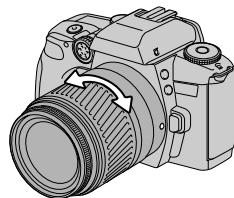
- 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させて撮影してください。壁にもたれたり、机などに肘をついても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュを使用しないで撮影する場合や、望遠レンズを使う場合は、手ぶれがおこりやすくなります。このような場合は三脚などにカメラを固定して撮影してください。

基本撮影編

ズームレンズの使い方

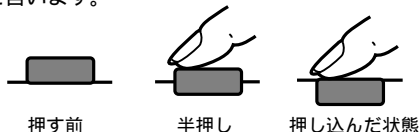
ズームリングを回して焦点距離（画角）を変え、写したいものの大きさを決めます。写すものの大きさを変えるには以下の２つの方法があります。

・被写体に近づいたり、遠ざかったりする。
・レンズの焦点距離（画角）を変える。

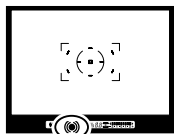
広角の場合は広い範囲のものを画面に入れて写すことができ、望遠の場合は遠くのものを大きく写すことができます。

ピントの合わせ方

シャッターボタンの半押し

シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と言います。

押す前　　半押し　　押し込んだ状態

フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内のフォーカス表示がピントの状態をお知らせします。

● 焦点距離の長いレンズやマクロレンズをご使用のとき、あるいは暗い被写体を撮影するときは、ピントの精度を上げるためレンズの駆動が少し遅くなる場合があります。

フォーカス表示

表示	状態
● 点灯	ピントが合っています。
((●)) 点灯	ピントが合っています。 被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
(　) 点灯	ピント合わせの途中です。シャッターは切れません。
● 点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません。 オートフォーカスの苦手なもの(P.33)、またはレンズの最短撮影距離よりも近いものを撮ろうとしていないか確認してください。

シャッターボタンを半押ししたときにフラッシュが上がった場合

フルオートプログラムなどフラッシュ自動発光が設定されている場合、暗い場所や逆光シーンでは、内蔵フラッシュが自動的に上がり、撮影時にフラッシュが発光します。すでにフラッシュが上がっている状態では、必要な場合に自動的に発光します。

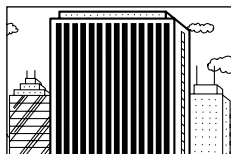
● フラッシュの充電が完了するまではシャッターは切れません。（P.38参照）
● フラッシュの自動発光を止めることもできます。（P.37参照）
● カメラの使用後は、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

フラッシュ光の届く範囲について（P.38参照）
フラッシュ表示について（P.38参照）
内蔵フラッシュ使用時の注意について（P.38参照）

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト(明暗差)を利用しています。次のような被写体ではピントが合いにくい場合があります。フォーカスロック(P.34)で同じ距離のものにピントを固定してから、シャッターボタンを半押しのまま構図を変えて撮影してください。

青空や白壁などコントラスト(明暗差)のないもの

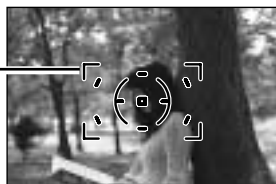
おりの中の動物など、距離の異なるものが混じっているとき

ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの

太陽のように明るい被写体や、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

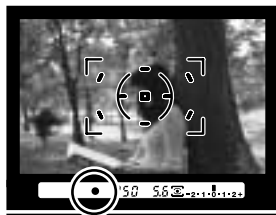
ピントの合わせ方 (続き)

撮りたいものが画面中央にないときは

ピントを合わせたいものが、フォーカスフレームに入らないときに、そのまま撮影すると、フォーカスフレームと重なっている背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは次のようにしてピントを固定(フォーカスロック)して撮影してください。

1. ピントを合わせたいものに、ワイドフォーカスフレームを重ねます。

2. シャッターボタンを半押し*します。

● ファインダー内の●が点灯し、ピントが合った部分のローカルフォーカスフレームが、一瞬赤く点灯します。

＊ 半押しについて （P.32参照）

3. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に変えます。

4. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

■ ピントと同時に露出も固定されます(14分割ハニカムパターン測光選択時のみ)。

■ 撮影後、シャッターボタンから指を離すと、ピントの固定は解除されます。撮影後も指を離さずにそのまま半押し状態に戻すと、同じピント位置で連続して撮影できます。

■ フォーカス表示●が点灯しないとき(被写体が動いているときなど)は、ピントが固定されないので、シャッターボタン半押しによるフォーカスロック撮影はできません。

■ シャッターボタン半押し以外でのフォーカスロック撮影も可能です。（P.53参照）

フルオートプログラム Ⓟ

フルオートプログラムでは、撮影の状況にあわせてカメラが最適な設定を全自動で行います。シャッターボタン以外の操作をする必要がないので、一眼レフを初めてお使いになる方や、構図決めとピント合わせに集中してシャッターを切りたい時などにおすすめです。

基本撮影編

同じメインスイッチ/モードダイヤルで選択可能な、フルオートプログラム Ⓟ と露出モードのP(プログラム)モードは、それぞれ違う働きをします。
フルオートプログラム Ⓟ は、露出モードも含めたあらゆるカメラの設定を、最も基本的な設定にリセットする機能です。
それに対してP(プログラム)モードは、露出(絞りとシャッター速度)の決定だけを自動化するもので、他の撮影設定はリセットされません。

フルオートプログラムの設定内容

メインスイッチ/モードダイヤルをフルオートプログラムに合わせると、ほぼすべての設定が最も基本的な状態にリセットされます。リセットされる項目は次ページの表を参照してください。

- ■ フルオートプログラムでも、撮影者が設定に変更を加えることができます。ただし、メインスイッチをOFFにすると、変更した設定は解除されます。
- ■ いったんフルオートプログラムに合わせると、露出モードや撮影シーンセレクターで撮影者が設定した内容は解除されます。

次ページに続く

フルオートプログラム (続き)

項　目	設　　定	ページ
ピント合わせ	**オートフォーカス優先（カスタム1-1設定時）・AF制御自動切り替え** 被写体が動いているか静止しているかをカメラが判断し、自動的にピントを合わせます。ピントが合うまでシャッターは切れません。	57
フォーカスフレーム	**ワイドフォーカスフレーム** 9つのローカルフォーカスフレームのうち、どの部分にピントを合わせるかをカメラが自動的に判断します。	34
AF補助光	**発光（カスタム10-1設定時）**	39
露出モード	**Pモード** 絞り値とシャッター速度が自動的に決まります。	62
測光モード	**14分割ハニカムパターン測光** 画面全体を14分割して測光します。	73
露出補正	**±0**	81
巻き上げ	**1コマ撮影** 連続撮影、ブラケット撮影、セルフタイマー、多重露光、リモコンはキャンセルされます。	45
フラッシュ	**自動発光（カスタム7-1設定時）** 発光する場合は、自動発光または赤目軽減自動発光になります(赤目軽減発光の設定の有無によります)。プログラムフラッシュをカメラに取り付けている場合は、常に自動発光になります。	37

以下の項目は、フルオートプログラムに設定しても変更されません。また、フルオートプログラム設定後も変更できます。

- 内蔵フラッシュの赤目軽減発光
- 日付・時刻写し込みモード
- フィルム感度
- カスタム設定
- 電子音の設定
- 撮影シーンセレクターで選択したモード

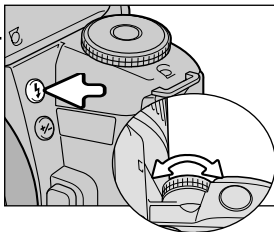
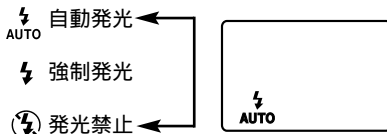
内蔵フラッシュ撮影

このカメラには28mmレンズの画角をカバーする内蔵フラッシュが搭載されています。

フラッシュモードの選択

フラッシュモードボタンを押しながら、ダイヤルを回します。

● ダイヤルを回すたびにボディ表示部の表示が、下のように変わります。

AUTO 自動発光
↑↓
強制発光
↑↓
発光禁止

自動発光

暗い場所や逆光などフラッシュが必要な場合には、シャッターボタンを半押しにすると内蔵フラッシュが自動的に上がり、フラッシュが発光します。すでにフラッシュが上がっている状態では、必要な場合には自動的に発光します。

- ■ シャッターボタン半押し中に内蔵フラッシュを下げると、シャッターボタンを離すまで一時的に発光禁止にすることができます。
- ■ 自動発光の設定時でも、フラッシュモードボタンを押しながら撮影すると、強制発光させることができます。

強制発光

屋外で人物の顔に帽子の影ができているときや、蛍光灯のついた屋内で撮影するときなどは、フラッシュを発光させるとより美しい写真が撮れます。

- ■ 撮影後もそのまま強制発光です。自動発光に戻すには、同じ操作で AUTO を表示します。

発光禁止

美術館や博物館などフラッシュの使用が禁止されている場合に、フラッシュを発光させずに撮影することができます。

- ■ フラッシュが上がった状態でも発光しません。
- ■ 撮影後もそのまま発光禁止です。自動発光に戻すには、同じ操作で AUTO を表示します。
- ■ 暗いところで発光禁止を選んで撮影すると、シャッター速度が遅くなり、写真がぶれやすくなります。三脚の使用をおすすめします。

フラッシュ表示

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内のフラッシュ表示が、フラッシュの状態をお知らせします。

フラッシュ表示	フラッシュの状態
ϟ 消灯	**フラッシュが上がった場合、フラッシュが充電中です(充電が完了するまでシャッターは切れません)。** ＊ フラッシュが上がらない場合、フラッシュは発光しません(シャッターは切れます)。
ϟ 点灯	**フラッシュの充電が完了しました。**
ϟ 点滅 (撮影後)	**フラッシュ光が被写体に届きました。** ＊ ϟ が点滅しなかったときは、フラッシュ光が被写体に届いていません。下記の「フラッシュ光の届く範囲」を確認してください。

フラッシュ光の届く範囲

内蔵フラッシュの光が届く範囲には限度があります。範囲外の被写体を撮影してもフラッシュの効果は得られません。以下の表を目安にしてください。

	絞り値			
フィルム感度	F2.8	F3.5	F4	F5.6
ISO 100	1.0～5.6m	1.0～4.5m	1.0～4.0m	1.0～2.8m
ISO 400	1.0～11.0m	1.0～9.0m	1.0～8.0m	1.0～5.6m

内蔵フラッシュ使用時の注意

カメラの使用後は、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

内蔵フラッシュで撮影する場合は、フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真の下部に影ができることがあります。以下の点に注意して撮影してください。

■ 被写体から1m以上離れて撮影してください。

■ レンズフードは取り外してください。

■ 下記のレンズで内蔵フラッシュ撮影するときは、広角側でフラッシュ光がレンズでさえぎられることがあります。フラッシュ撮影には別売のプログラムフラッシュの使用をおすすめします。詳しくは裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

・AFズーム17-35mm F3.5G
・AFズーム28-70mm F2.8G
・AFズーム28-85mm F3.5-4.5
・AFズーム28-135mm F4-4.5

■ 下記のレンズ使用時は、フラッシュ光がレンズでさえぎられるため、内蔵フラッシュによる撮影はできません。

・AFアポテレ300mm F2.8(ハイスピードタイプを含む)
・AFアポテレ600mm F4(ハイスピードタイプを含む)
・AFアポテレ300mm F2.8G(D)SSM

■ このカメラの内蔵フラッシュは、焦点距離28mmの画角をカバーします。28mm未満の広角レンズで内蔵フラッシュ撮影をすると、写真の周辺まで光が届かず、暗くなることがあります。

AF補助光

被写体が暗いとき、シャッターボタンを半押しするなどオートフォーカス(AF)でピントを合わせようとすると、フラッシュが光ることがあります。これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。

■ 補助光の届く範囲は、約1～5mです(当社試験条件による)。

■ 内蔵フラッシュを発光禁止にしているときは、AF補助光は発光しません。

■ フォーカスモードをコンティニュアスAF(C)にしているとき(ファインダー表示 (◉) が点灯しているとき)、補助光は発光しません。

■ プログラムフラッシュを取り付けているときは、プログラムフラッシュのAF補助光が発光します。

■ レンズの焦点距離が300mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。AFマクロズーム3x-1x使用時にも、AF補助光は発光しません。

■ このAF補助光を発光させないようにすることもできます。(P.110参照)

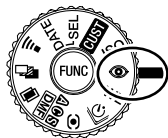
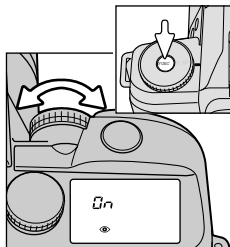
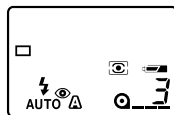
■ フラッシュの充電が完了していない場合、充電完了後にAF補助光が発光し、AFを開始します。

赤目軽減フラッシュ発光

人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。撮影の直前に、小光量のフラッシュを数回発光させると、目が赤く写る現象をやわらげることができます。

> **赤目軽減フラッシュ発光は、内蔵フラッシュのみで可能です。プログラムフラッシュ取り付け時は一時的に解除されますが、プログラムフラッシュ発光時に目が赤く写ることはほとんどありません。**

赤目軽減フラッシュ発光を設定する

1. **ファンクションダイヤルを赤目軽減フラッシュ発光設定の位置まで回します。**

2. **ファンクションボタンを押しながら、ダイヤルを回しボディ表示部にと On を表示させます。**

● ファンクションボタンから手を離すと、通常の表示に戻り、ボディ表示部にが残ります。

赤目軽減フラッシュ発光を解除する

On にする場合と同じ要領で、OFF を選びます。

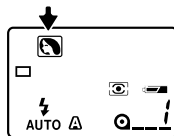
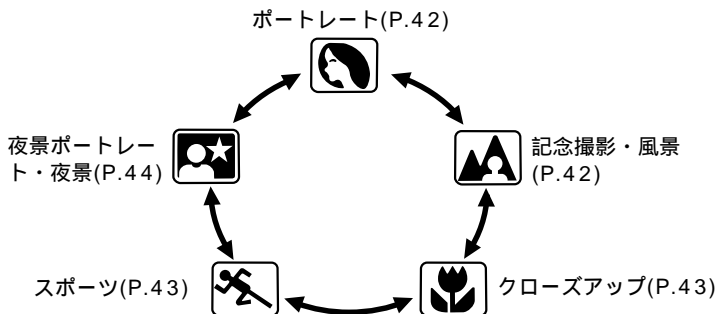
OFF

撮影シーンセレクター

撮影したい場面を絵表示で選ぶだけで、その場面に合った設定で写真を撮ることができます。

撮影シーンセレクターの選択

1. メインスイッチ/モードダイヤルを回して、 に合わせます。

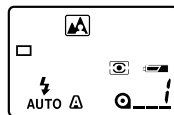
2. ダイヤルを回して、撮りたいシーンの絵表示を選択します。

■ フラッシュモードは撮りたいシーンに合わせて選択します。詳しくは、各撮影シーンセレクターモードのページをご覧ください。

ポートレート

背景をほどよくぼかし、人物をくっきりと立体的に引き立たせます。

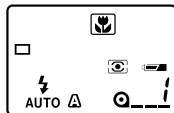
■ 逆光のときや、顔に影ができているときは、フラッシュの使用をおすすめします。
■ 背景をぼかすには、ズームレンズの望遠側(または望遠レンズ)の方が効果があります。

記念撮影・風景

手前の人物も、思い出に残したい背景も、両方ともくっきりと写します。風景写真もシャープに写せます。

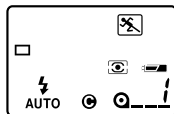
■ 記念写真で逆光のときは、フラッシュの使用をおすすめします。
■ 風景のみ撮影するときは、フラッシュ光が届かないのでフラッシュは使用しないでください。フラッシュモードは発光禁止 ⚡ を選んでください。（P.37参照）
内蔵フラッシュ光の届く範囲について（P.38参照）
■ 曇りの日などそれほど明るくないときは、手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。
■ 夜景を背景に記念撮影する場合は、夜景ポートレートモードをお使いください。（P.44参照）
■ 画面全体にピントを合わせるには、ズームレンズの広角側(または広角レンズ)の方が効果があります。

クローズアップ

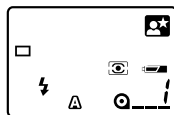
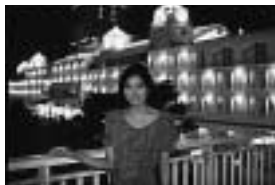
小さい草花や昆虫などに近づいて撮影するときに使います。被写体全体をくっきりとシャープに写すことができます。

- ■ クローズアップ撮影では手ぶれが目立ちやすくなるので、三脚の使用をおすすめします。
- ■ ピントの精度を上げるため、レンズの駆動が少し遅くなる場合があります。
- ■ 1m以内で内蔵フラッシュで撮影すると、写真の下部に影ができるため、内蔵フラッシュは使用しないでください。フラッシュモードは発光禁止 ⚡ を選んでください。（P.37参照）
- ■ 1m以内のフラッシュ撮影には、別売のプログラムフラッシュをおすすめします。
- ■ クローズアップのフラッシュ撮影時は、レンズのフードを外して撮影してください。
- ■ レンズの最短撮影距離に注意して撮影してください。
- ■ より大きく撮影するには、AFマクロレンズをおすすめします。

スポーツ

速く動いているものを速いシャッター速度でシャープに写し止めます。

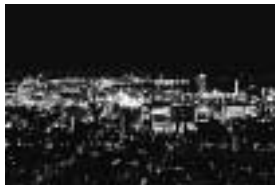
- ■ ピントが合ったフォーカスフレームが点灯します。被写体の位置が動くと、自動的に再度ピント合わせを行ない、ピントが合った部分のローカルフォーカスフレームが一瞬赤く点灯(0.3秒)します。ピントが合っているときのフォーカス表示は ◉ になります。

- ■ なるべく高感度なフィルム(ISO400・800など)の使用をおすすめします。
- ■ フラッシュ光が届かない場合は、フラッシュは使用しないでください(フラッシュモードは発光禁止 ⚡ を選んでください)。（P.37参照）
- ■ 内蔵フラッシュ光の届く範囲についてはP.38をご覧ください。
- ■ 望遠レンズ使用時には、手ぶれしやすいので三脚の使用をおすすめします。

夜景ポートレート

夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では、手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュ光の届かない背景は黒くつぶれてしまいます。そのような場合にこのモードを使うと、人物も夜景もきれいに撮ることができます。

1. ボディ表示部に[夜景ポートレート]を表示させます。
2. フラッシュモードボタンを押しながらダイヤルを回して、ボディ表示部に[発光禁止]以外を表示させて、撮影します。（P.37参照）

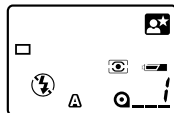
■ シャッター速度が遅くなりますので、三脚をお使いのうえ、写される人に声をかけてフラッシュ発光後も動かないように気をつけてもらうことをおすすめします。
■ なるべく高感度なフィルム(ISO400・800など)の使用をおすすめします。

夜景撮影

フラッシュ光の届かない夜景をきれいに写します。

1. ボディ表示部に[夜景]を表示させます。
2. フラッシュモードボタンを押しながらダイヤルを回して、ボディ表示部に[発光禁止]を表示させて、撮影します。（P.37参照）

■ シャッター速度が遅くなり、手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

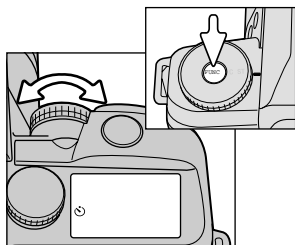
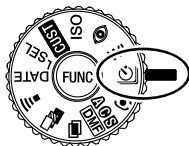
■ 明かりの少ない全体的に暗い夜景だと、写真がうまく仕上がらないことがあります。

■ なるべく高感度なフィルム(ISO400・800など)の使用をおすすめします。
■ ピントが合いにくいときは、明るい部分でピントを合わせてから撮影してください。

セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。

1. **カメラを三脚などに固定します。**

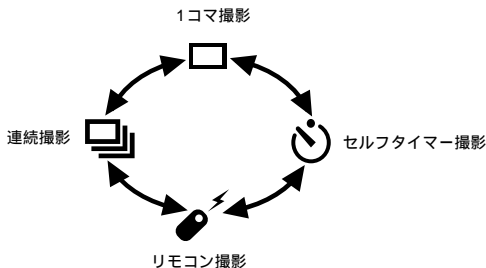
2. **ファンクションダイヤルを巻き上げモード の位置まで回します。**

3. **ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に を表示させます。**

- ダイヤルを回すたびに、設定が以下のように変わります。

1コマ撮影

連続撮影

セルフタイマー撮影

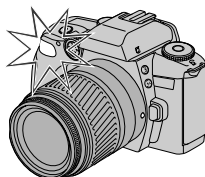
リモコン撮影

- ファンクションボタンから手を離すと設定が完了します。

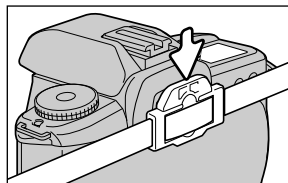
次ページに続く

セルフタイマー撮影 (続き)

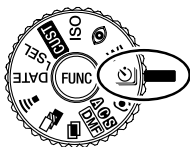
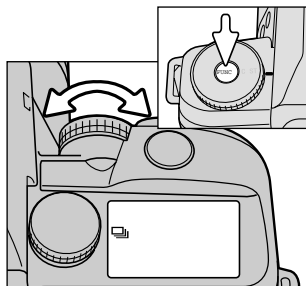
4.シャッターボタンを半押しして、撮りたいものにピントを合わせます。

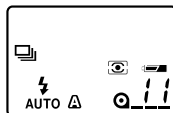
5.ピントが合っていることを確認して、そのままゆっくりとシャッターボタンを押し込みます。

● セルフタイマー作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅し、撮影直前には素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
● 電子音の設定がONのときは、音でも作動確認できます。（P.29参照）
● カメラの真正面に立ってシャッターボタンを押さないでください。ピント合わせができなくなります。
● 撮影後、セルフタイマーは解除されます。

■ **作動中のセルフタイマーを止めるには、メインスイッチ／モードダイヤルあるいはファンクションダイヤルを回してください。**

■ **カメラの後ろに明るい光源や反射物などがあるときは、ファインダーから光が入るのを防ぐため、アイピースカップをはずしてストラップに付いているアイピースキャップをつけてください。アイピースキャップはファインダー上部からスライドさせて取り付けます。(右図)。**
アイピースカップのはずし方（P.23参照）

連続撮影 □

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影します。

1.ファンクションダイヤルを巻き上げモード の位置まで回します。

2.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に □ を表示させます。

3.シャッターボタンを押し続けて撮影します。

● 押し続けている間、連続撮影されます。

■ **次の条件のとき1秒に約3コマの速さで撮影できます。**
AFモードがワンショットAFかDMF(ダイレクトマニュアルフォーカス)、またはマニュアルフォーカスで、シャッター速度が 1/250秒以上、日付・時刻の写し込みなし、フラッシュ発光なし、新品電池使用時。

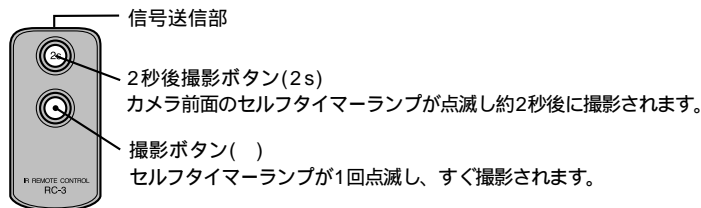
■ **連続撮影を終えるときは、□を選択し直してください。**

■ **内蔵フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。**

■ **AFモードが AF-A、 AF-C時に、シャッターボタンを押し続けている間は、被写体までの距離が変わったときはそのたびにピントを合わせ直します。ピントが合うまでシャッターは切れません。ただし、カスタム設定1(P.104参照)でレリーズ優先にすることもできます。**

■ **AFズームXiレンズ、またはAFパワーズームレンズ使用時は、連続撮影中のズームはできません。**

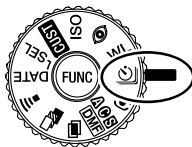
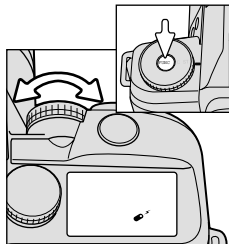
リモコン撮影

別売のIRリモコンRC-3を使うと、カメラから離れて撮影することができます。手ぶれを防ぎたい場合や、セルフタイマーを使われる場合にも有効です。

信号送信部

2秒後撮影ボタン(2s)
カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅し約2秒後に撮影されます。

撮影ボタン(●)
セルフタイマーランプが1回点滅し、すぐ撮影されます。

1.カメラを三脚などに固定します。

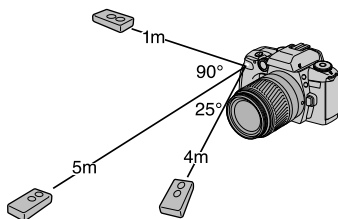
2.ファンクションダイヤルを巻き上げモード の位置まで回します。

3.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に を表示させます。

4.リモコンをカメラに向けて2sボタンか●ボタンを押して撮影します。

- 電子音の設定がONのときは、撮影のタイミングを音でもお知らせします。(P.29参照)
- リモコンの作動範囲は次ページの図を参照してください。

■ リモコン撮影後もリモコン撮影は解除されません。そのまま続けて撮影できます。
■ 内蔵フラッシュが発光するときは、最初にリモコンのボタンを押したときにフラッシュが上がって充電が始まり、充電完了後、再度リモコンのボタンを押したときに撮影されます。
■ リモコン撮影を解除するには、メインスイッチをOFFにするか、別の設定を選択し直してください。また、5分以上カメラやリモコンを操作しないと、自動的にリモコンモードは解除されます。フィルムを交換してもリモコンモードは解除されます。
■ リモコンモードで、シャッターボタンを押して撮影するとリモコン撮影は解除されます。
■ リモコンモード設定時、シャッターボタンでピントを合わせるとフォーカスロックされ、リモコンのボタンを押してもピント合わせは行われません。この場合、シャッターボタンの半押しで何回もフォーカスロックをやり直すことができます。
■ カメラの後ろに明るい光源や反射物などがあるときは、ファインダーから光が入るのを防ぐため、アイピースカップをはずしてアイピースキャップを付けてください。（P.46参照）

リモコン信号の受信範囲

リモコン信号の受信範囲は基本的に右図の通りですが、下記の点にご注意ください。

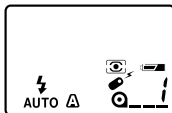
● 使用するレンズによって作動範囲が狭くなる場合があります。
● 逆光時や蛍光灯の近く、極端に明るい場所では、リモコン撮影が可能な距離が短くなったり、リモコン撮影ができないことがあります。

[　]の中に撮りたいものがないときは

リモコンを使って撮影する場合に、被写体が画面中央にないときは以下の手順で撮影してください。

● コンティニュアスAFモードおよび撮影シーンセレクターのスポーツモードでは、この撮影方法はできません。

1.カメラを三脚などに固定します。

2.ボディ表示部に ⁄ を表示させます。

3.シャッターボタンを半押しして、撮りたいものにピントを合わせます。

4.ファインダー内のフォーカス表示●が点灯したらシャッターボタンから指を離します。

● シャッターボタンから指を離してもピントおよび露出は固定されています。

● シャッターボタンの半押しで何度でもピントを合わせなおすことができます。

5.撮りたい構図に変え、リモコンで撮影します。

■ **撮影後もピント位置は固定されています。ピント位置の固定をやり直したいときは、もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直してください。**

■ **半押しの代わりにスポットAFロックボタンを押しても上記と同じようにピントを合わせることができます。**